

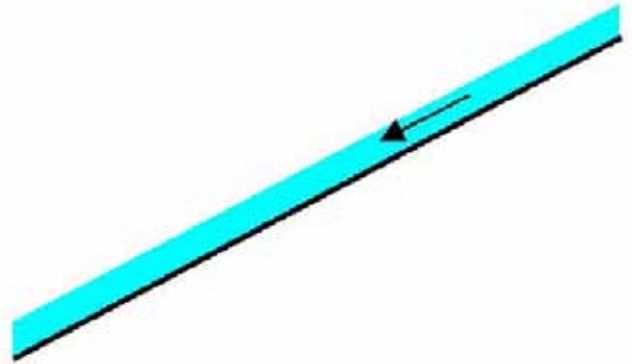
砂防設備の働きについて

ここでは主な砂防設備である

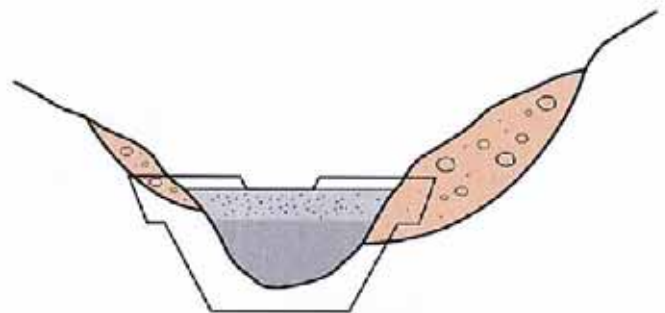
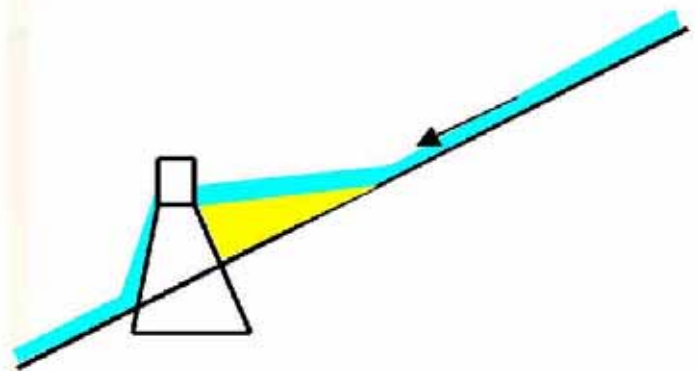
砂防えん堤工、スリット型砂防えん堤工、床固工群・護岸工、山腹工について紹介しています。

砂防えん堤の働きについて

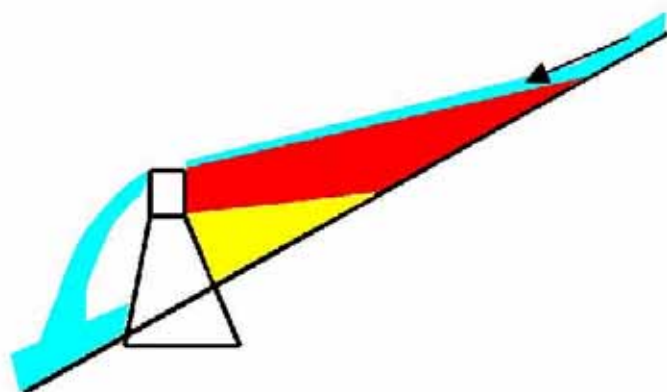
渓流に砂防えん堤がないと、大量の土砂が一気に下流まで流れ出ます。



砂防えん堤をつくると、上流からの土砂により黄色部分に堆積し、川の勾配がゆるくなって両側の山腹の崩壊を防ぐことができます。

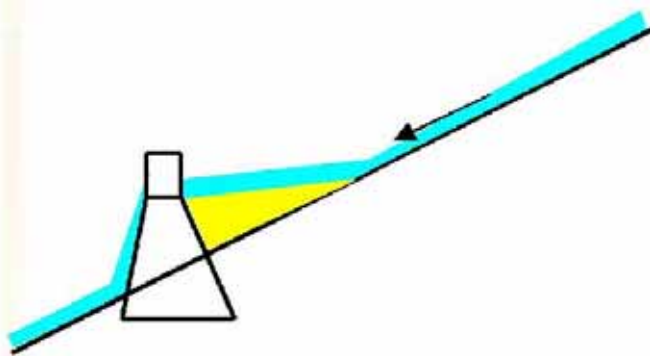
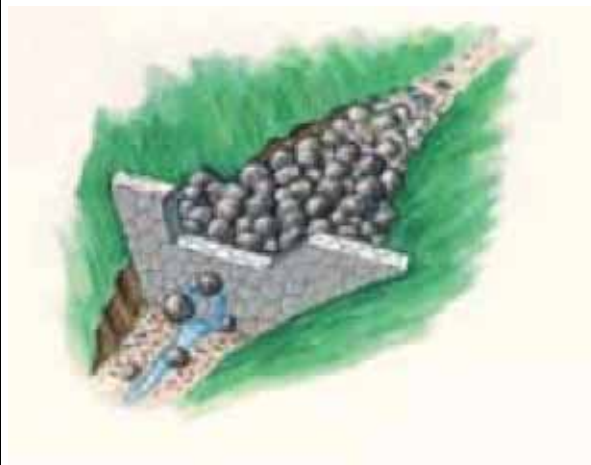


大雨などにより土砂が流れてきた場合、砂防えん堤はさらに多くの土砂を一時的に貯めます。(赤色部分)



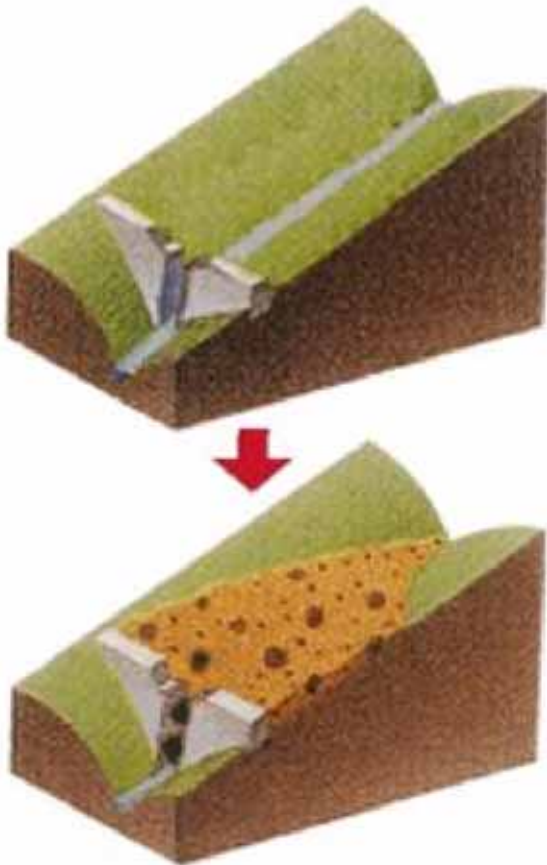
【大分県佐伯市 上落水川】

一時的に砂防えん堤に貯められた余分な土砂は、その後の川の流れによって徐々に下流へ流れ出され、 の状態に戻ります。



【山形県長井市 久川】

スリット型えん堤とは



小出水時は、流れてきた土砂をそのまま下流に流します。
スリット底を上下流の現溪床高に合わせることで生物移動空間の連続性を確保することができます。

大規模な土石流が起こった時は、下流に災害が起こらないように土石流等を捕捉します。土石流発生後には除石を行うことにより、生物等の移動を可能にします。

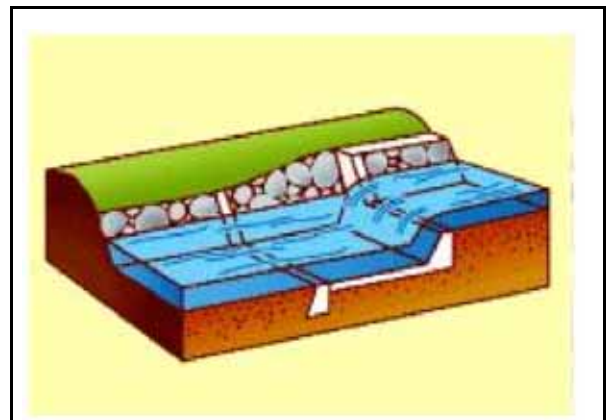
「日本の砂防」より

床固工群、護岸工とは

河床の勾配を緩やかにして土砂の再移動を防いだり河床や河岸が削られるのを防ぎます。



川底の勾配を穏やかにして土砂の再移動を防ぎます。



川岸や川底が削られないようにします。

山腹工とは

